



二十歳の門出

1月12日 市文化会館大ホールで成人式を開催

笑顔で再会した新成人たちは、記念すべきこの日をみんなで祝いました。
そして、460人の新成人たちは、大人へ新たな一歩を踏み出しました。



「家族の幸せが自分の幸せ」と言える家庭をつくりたい



おおうえ たかゆき
大上 貴之さん
(布気町)

私は、両親の勧めもあって、小学生の時に野球を始めました。その時から、甲子園に出たいという想いを胸に、ずっと野球に打ち込んできました。

しかし、私が高校生の時に、けがをしてしまい、練習や試合に出られなくなりました。チームのみんながどんどん上手くなっていく中で、自分だけが取り

残されているようで、つらくて辞めたいと思うようになりました。そんな時、父は私に「野球を勧めたのは、仲間がいれば、つらい時も、喜ぶことも一緒にできるからだ。自分も野球をすることで、仲間と一緒になら、つらさは2分の1になるし、同時に、喜びは人数分増えるという体験をしてきたからだ」と言ってくれました。また母は、「今できることをしたらいいよ。家族全員で支えてあげるから野球に打ち込んだらいい。家族の幸せが自分の幸せだよ」と言ってくれました。その時気付いたのは、私が試合の時には父がどんなに仕事が忙しくても必ず応援に来てくれたこと、野球の練習で泥だらけになったユニフォームを母が毎日、真っ白になるまで洗ってくれたことなど、どんな時も家族のみんながサポートしてくれました。また、チームメイトから「早く戻ってこいよ。待ってるからな」と声を掛けてくれたことも思い出しました。

それから両親やチームメイトからの言葉を胸に、甲子園に向けて、つらい時も嬉しい時も仲間と一緒に、練習を重ねました。残念ながら、県大会ではベスト8までしか進むことができませんでしたが、私は野球を通して、礼儀やマナー、野球を通じた友人を得ることができた強く感じました。

県大会で敗れた直後に、監督から「今までの経験が、いずれはプラスになっていく。卒業しても頑張れよ」と言葉をいただきました。

高校卒業後は、監督からもらった言葉を胸に、社会人としてはまだまだ半人前ですが、会社員として忙しい日々を送っています。“先輩から認められ、仕事を任されたい”という想いをもって、仕事を頑張っています。

また、私はいつか結婚し、子どもができたときに、私が育ってきた家庭のように「子どもを支えられ、家族の幸せが自分の幸せ」と、子どもに胸を張って言える家庭をつくっていきたいです。

夢に向かって頑張れるのは支えてくれる家族がいるから

私は今、名古屋学芸大学で、ファッションの勉強をしています。大学では、コンテストに向けてデザイン画を起こしたり、織り機や友禅染を活用したオリジナルの生地づくり、また、百貨店の売り上げ分析をするなど、ファッションをテーマに幅広く学んでいます。

大学には亀山から毎日、往復6時間をかけて通っています。そして、毎日のように出される学校の課題も、自分の納得できるものを提出しようと、家に帰宅してから深夜まで作業を続けています。

「そんな生活、すごく大変なんじゃないか？」と思われる方も多いかもかもしれません。しかし私自身、その大変さよりも、毎日の授業が新鮮で楽しく、「ファッション関係の仕事に就きたい」という自分の夢に向かって努力できることに喜びを感じる毎日です。

私の家族はとても仲が良く、妹も私も自分の部屋を使うことがなく、ほとんどの時間を家族が集まるリビングで過ごします。

学校で嫌なことがあったり、課題に行き詰まったりする時もありますが、自分が一番落ち着ける空間で過ごすことで、気持ちがリセットされ、「また、明日から頑張ろう。」という気持ちが湧いてきます。

私が夢に向かって頑張りが続けることができるのは、いつも支えてくれていて、何があっても私の味方でいてくれる家族の存在があるからだと思います。

20歳という節目の日を迎え、これから自分がどのような道を歩んでいきたいかを考えた時、思い出した母の言葉があります。「自分でやると決めたことは最後までやり抜きなさい。途中で投げ出すことはするな」という言葉です。これから先、就職活動など大きな壁にぶつかり、悩み苦しむことがあるかもしれませんが、しかし、そんな時こそ、母のこの言葉を胸に、強い意志を持って自分の夢の実現に向かって挑戦し続けたいと思います。

最後になりましたが、両親をはじめ、今日この日まで私を支えてくれた全ての人に感謝し、新成人の言葉とさせていただきます。



さかい みゆ
酒井 美侑さん
(安坂山町)